

Oracle Fusion Middlewareの 今後の方向性

Oracle Fusion Middleware 製品ファミリー向け製品計画のガイド

2024年12月
Copyright © 2024, Oracle and/or its affiliates
公開

免責事項

下記事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。マテリアルやコード、機能の提供をコミットメント（確約）するものではなく、購買を決定する際の判断材料になさらないでください。オラクルの製品に関して記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定されます。



Oracle Fusion Middlewareの方向性

Oracle Fusion Middlewareは、オラクルのエンタープライズ向けデジタル・ビジネス・プラットフォームです。これにより、クライアント/サーバー、Web、およびクラウドの環境において、アジャイルでインテリジェントなアプリケーションを効率よく作成し、実行できます。Fusion Middlewareにおけるオラクルの戦略は、現在のプラットフォームのモダナイゼーションを継続し、クラウド・ネイティブなアプリケーションの開発とデプロイメントに橋渡し役となるテクノロジーを提供することです。Oracle Fusion Middlewareの今後のリリースでは、クラウド・インフラストラクチャへの移行の簡素化を実現し、Fusion Middlewareベースのアプリケーションを実行するための優れたサービスを提供する高度な機能をお客様に提供します。

つまり、Fusion Middlewareのお客様は、アプリケーションの優れたパフォーマンス、信頼性、セキュリティを今後も引き続き享受でき、次世代のクラウド・テクノロジーを導入する準備が整った際は移行への明確な道筋が示されます。また、今後何年にもわたって既存のFusion Middlewareソフトウェア・ライセンスのサポートを受け続けながら、お客様自身のペースでクラウドに移行できます。オラクルでは、強制的なアップグレードや移行は計画していません。

Oracle Fusion Middleware 14.1.2

2020年3月に出荷が開始されたOracle WebLogic Server and Oracle Coherence 14.1.1は、Oracle Fusion Middleware 14.1製品ラインの最初の製品リリースです。これにはJava EE 8およびJakarta EE 8の互換性、マイクロサービスとの簡素化された統合、新しいオープン・ソースのWebLogic Remote Consoleのサポート、Kubernetesのツールとサポートの機能強化、Oracle Java SE 8と11の認定、GraalVM EEの認定、およびOracle Database統合の向上などが含まれます。

Oracle Fusion Middleware 14.1.2は、2024年12月に出荷され、更新されたバージョンであるOracle WebLogic Server 14.1.2およびOracle Coherence 14.1.2上に構築されます。WebLogic Server 14.1.2およびCoherence 14.1.2では、以下の領域の機能が強化され、搭載されています。

- 最新のJavaテクノロジーであるJava SE 17、Java SE 21、Jakarta EE 8のサポート
- Oracle DatabaseおよびOracle Database Cloud Serviceとの統合を最適化するための、最新のOracle JDBCドライバ・バージョンへのアップデート（最新のOracle Database 23aiを含む）
- Helidonベースのマイクロサービスとの統合強化、Helidon 4での仮想スレッド・サポートの活用、MicroProfileサポートの更新
- Coherence Community Editionですでに実現されているイノベーションに由来する、Oracle Coherenceの新機能
- パフォーマンス、動的スケーリング、高可用性のためのロードバランサ・サポートの更新
- 最新のセキュリティ要件と規制要件に対処するためのセキュリティとコンプライアンスの強化
- Oracle Cloud Infrastructureサービスとの統合の改善
- クラウド・ネイティブなアプリケーションの開発とデプロイメント（Cloud Native Computing Foundation（CNCF）が推奨するテクノロジーとの連携を含む）
- ハイブリッド・クラウド環境やマルチクラウド環境での相互運用性

WebCenter 14.1.2では、以下の領域の機能が強化され、搭載されています。

- Oracle OpenSearchとElasticsearchの新しいバージョンのサポート
- Kubernetesを使用したOracle WebCenter製品のコンテナ化サポート
- Oracle WebCenter Content Desktop管理ツールのサポートをMac OSまで拡張

- Oracle WebCenter Contentの新しいIDCサービスの追加
- 大量のドキュメント管理をサポートするためのOracle WebCenter Contentでの大きなdIDのサポート
- OCIへの移行を簡素化するオブジェクト・ストレージに対するOracle WebCenter Contentのサポート
- MS Graph APIサポートに対するOracle WebCenter Enterprise Captureサポート
- Oracle WebCenter Enterprise Captureのバッチ処理の機能強化

SOA 14.1.2では、以下の領域の機能が強化され、搭載されています。

- Apache Kafka用のネイティブ・アダプタ
- ハイブリッド統合アーキテクチャのサポート
- OpenAPIの拡張サポート
- 履歴のページ
- プロキシ経由でのRESTサービスのサポート
- 動的アーカイブ・ディレクトリの処理
- RESTマルチパート・フォームデータ

14.1.2の初期出荷に含まれている最初のミドルウェア製品は以下のものです。

- Oracle WebLogic Server、Oracle Coherence、およびOracle HTTP Server
- Oracle JDeveloperおよびOracle Application Development Framework (Oracle ADF)
- Oracle SOA SuiteおよびOracle Business Process Management (Oracle BPM) Suite
- Oracle WebCenter Portal、Oracle WebCenter Content、およびOracle WebCenter Sites
- Oracle Forms and Reports
- Oracle Data IntegratorおよびOracle Enterprise Data Quality

Oracle Identity Manager、Oracle Access Manager、Oracle Universal Directory、Oracle Internet Directory、およびコネクタで構成されるOracle Enterprise Identity Services Suiteは、Fusion Middleware 14.1.2をベースにした新しいバージョンのリリースが予定されています。目標とする一般提供開始日は、2025年（暦年）です。このリリースの後、以降の更新を通じて新機能が定期的に導入される予定です。さらに、ロードマップにはOracle Fusion Middleware 14.1.2に基づくOracle Enterprise Single Sign-On Suiteへのサポートの拡張が含まれます。

以下のOracle Fusion Middlewareコンポーネントは、Kubernetesでサポートされています。

製品	バージョン別のKubernetesサポート		
	12.2.1.4	14.1.1	14.1.2
Oracle WebLogic Server	○	○	○
Oracle Coherence	○	○	○
Oracle HTTP Server	○	適用外	○
Oracle SOA Suite	○	適用外	○
Oracle WebCenter Sites	○	適用外	○
Oracle WebCenter Content	○	適用外	○
Oracle WebCenter Portal	○	適用外	○
Oracle Access Management	○	適用外	○*
Oracle Identity Governance	○	適用外	○*
Oracle Unified Directory	○	適用外	○*
Oracle Unified Directory Services Manager	○	適用外	○*

* 2025年（暦年）にリリース予定

以前のバージョンのサポートとFusion Middleware 14.1.2へのアップグレード

オラクルは、既存のお客様に最新リリースにアップグレードする道筋を示すことができるように、Fusion Middleware製品リリースを設計してきました。さらにオラクルでは、アップグレードを可能な限りスムーズに進めるために、各種のツール、トレーニング、専門知識を提供しています。古いリリースのOracle Fusion Middlewareのお客様は、以下のガイダンスを考慮してください。

- Fusion Middleware 14.1.2は、このスイートのメジャー・リリースです。お客様にはOracle Fusion Middleware 14.1.2へのアップグレードを推奨しています。そのバージョンでは、5年間のPremier Supportと3年間のExtended Supportが標準提供されるからです。
- Oracle Fusion Middleware 12.2.1および14.1.2のPremier SupportおよびExtended Supportの日付については、Oracle Fusion Middleware Lifetime Support Policy (<https://www.oracle.com/us/assets/lifetime-support-middleware-069163.pdf>)に記載されています。
- [Oracle Fusion Middlewareエラー修正サポート・ポリシー \(Doc ID : 209768.1\)](#) に定義されているように、オラクルではOracle Fusion Middleware 14.1.2を長期サポートのリリースとして指定しています。14.1.2の初期出荷に含まれる製品については、それより先のマイナー・バージョン（14.1.X）またはパッチ・セット（14.1.2.X）のリリースは予定されていません。個々のパッチは、必要に応じて製品別に提供される予定です。

WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1

オラクルでは、Fusion Middleware 14.1.2のリリースに続くFusion Middleware製品ラインの強化の継続を計画しています。特に、WebLogic ServerおよびCoherenceの新しいメジャー・リリースである、WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1の提供を2025年（暦年）に計画しています。

WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1には、以下のような領域の機能が強化され、サポートされる予定です。

- **Java認定** : Java 17、Java 21のサポートの継続
- **Jakarta EE 9.1** : WebLogic Server 15.1.1は、Jakarta EE 9.1を実装してサポートします。これには更新されたJakarta EEプラットフォームおよびJakarta EE API仕様が含まれます。Coherence 15.1.1は、WebLogic ServerおよびJakarta EE 9.1 APIの使用とのシームレスな統合を可能にするように更新されます。
- **Oracle Cloud Infrastructureの統合** : WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1は、Oracle Cloud Infrastructureサービスとの組込み型の統合を提供します。オラクルでは、Oracle Cloudへのオンプレミス環境の移行を簡素化する機能を提供することに尽力しています。さらに、Oracle Cloud内のWebLogic ServerおよびCoherence環境のライフサイクル管理を簡素化する機能の提供に重点を置きます。
- **アップグレード** : WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、WebLogic ServerおよびCoherenceの旧バージョンからアプリケーションをアップグレードするためのツールをサポートします。
- **サード・パーティ製のフレームワーク** : WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、WebLogic ServerおよびCoherenceアプリケーションで、“jakarta”パッケージ名（Jakarta EE 9.1で定義）を使用するサード・パーティ製のJavaフレームワークの使用が可能になります。
- **セキュリティ** : WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、WebLogic ServerおよびCoherenceアプリケーションの保護を簡素化し、セキュリティ標準の更新に対応するセキュリティ更新を提供します。
- **コンテナおよびKubernetes** : WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、物理マシンおよびVMへのデプロイメントのサポートの継続に加えて、クラウド・ネイティブのデプロイメントのサポートが強化されます。

オラクルでは、WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1に実装される追加のOracle Fusion Middleware製品のリリースの提供を予定しています。これらのリリースの範囲とタイミングについては、本書の今後の更新でお伝えします。

まとめ

オラクルはこれからも、ミドルウェア・ソフトウェアの分野におけるリーダーであり続けます。オラクルは、お客様をガイドし、いくつもの大きな業界テクノロジーの変化の波を乗り越えながら、お客様の投資を保護することに取り組んでいます。Oracle Fusion Middleware 14.1.2により、オンプレミスおよびクラウドの最新デジタル・ビジネス・プラットフォームへの道筋を示し続ける予定です。

Oracle Fusion Middlewareについて詳しくは、www.oracle.com/middlewareにアクセスするか、オラクルの販売担当者にお問い合わせください。

Connect with us

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、[oracle.com](https://www.oracle.com)をご覧ください。北米以外の地域では、[oracle.com/contact](https://www.oracle.com/contact)で最寄りの営業所をご確認いただけます。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

Copyright © 2024, Oracle and/or its affiliates. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれ会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。5 すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120